

支部だより

《新潟県支部》

「空穂の会」学術講演会報告

10月23日（土）15：00より新潟県歯科医師会館において標記講演会が開催されました。

「空穂の会」とは、新潟県新設私立歯科大学同窓会懇親会として平成8年に発足し、昨年で会の主管校7校が一順したことになり、新たな一歩として第8回「空穂の会」学術講演会が開催されました。

本年は、主管校神奈川歯科大学の口腔生理学教室教授で脳神経科学、老年学が専門の小野塚 實先生に『噛んでボケは予防できるか?』と題して講演をしていただきました。

痴呆（病的ボケ）は記憶障害（記憶力の低下）に端を発し、判断力の低下、人格の変化などさまざまな症状が生じ、日常生活に支障をきたし介護

が必要になるとのことでありました。また少子化を伴う日本では高齢痴呆患者の増加は、医療経済を圧迫するだけでなく、痴呆老人を抱える家庭では深刻な問題であり、痴呆疾患の原因究明とその予防対策の確立は、わが国の緊急課題の一つであるとのことでありました。

痴呆は、特に前頭葉、側頭葉あるいはその中の記憶をつかさどる海馬というところが損傷を受けることで症状が発現します。

脳梗塞がきっかけで痴呆が生じた方が、患者自身が噛んで食べることで適切な介護が伴うと病状が回復してくることを、往診しておられる歯科医はよく経験されるそうであり、このことを動物実験およびヒトボランティアを用いたfMRIにて検索され、その結果について話されました。

咀嚼機能低下処置を施した高齢期のマウスには海馬機能の低下が生じたが、若齢マウスにおいてはこれらの変化は見られなかったそうである。またヒトボランティアによるfMRIでの検索において咀嚼が海馬を活性化した。

聴講者対象に記憶障害をチェックするテストをされたが、かろうじて全問正解し、今のところ病的ボケはないようであり安心しました。

咀嚼機能を維持することは、記憶障害を予防するには重要なことが良く理解でき、わが国の緊急課題にわれわれ歯科医の果たすべきことがあることを認識でき、大変有意義な講演でありました。

懇親会は地震で大揺れの中、ホテルイタリア軒にて行われました。

中越地震で被災されたかたがたの一日も早い復旧をお祈りいたします。

文：神奈川歯科大学同窓会新潟県支部

19回生 横山 茂



《福岡県支部》

福岡県支部総会・講演会開催

去る11月13日（土）午後4時から福岡県歯科医師会館にて平成16年度福岡県支部総会・講演会が総数28名の参加で開催された。

まず、総会では山道支部長が挨拶に立ち、その後石橋正邦常務理事による本部、九地連、支部報告がされ、平成15年度決算および平成16年度予算案が承認可決された。

続いて、支部長交代、支部会費見直しについて活発な議論が行われた。

その後、今秋開催予定の九地連鹿児島大会の案内があり、無事総会が終了した。

総会終了後に、久保田隆朗先生（12回生）による「ストレスマネジメントを考慮した咬合の再構成」と題する学術講演会が行われ、顎関節症患者

等に対する咬合の分析と再構成について、解りやすく説明して頂いた。

講演終了後、場所を料理屋「赤兵衛」に移して、懇親会が開催された。鍋料理を味わいながら、和やかに話がはずむ一日となった。

福岡県支部モニター 18回生 石川 健一



《富山県支部》

神奈川歯科大学同窓会北陸三県合同総会、及び講演会

神奈川歯科大学同窓会北三合同窓会は、さる、平成16年11月13日（土）午後5時より、富山市の五万石「華遊膳」において、開催されました。当番県の米田支部長（富山県）より開会挨拶があり、会員に長期入院者がでた場合の対応について話し合われました。

総会后、神奈川歯科大学歯周病学講座 出口眞二教授をお迎えし、「患者のコンプライアンスを高める歯周治療」と題し講演をしていただきました。患者の口腔内の健康を維持するためには、コンプライアンスの獲得率を高めることが重要であり、そのためにはどのように治療をすすめればよいか、保険診療に促して、解りやすく講演していただきました。

講演後、直江支部長（福井県）の乾杯で懇親会が始まり、会員の自己紹介や出口教授から大学の近況報告もあり、学生時代の思い出話に花が咲き、

時期当番県である杉本 石川県支部長の謝辞にて閉会となりました。その後も話が尽きることなく、二次会、三次会へといつまでも盛り上がりを見せかけていました。

富山県支部 米田 仗二

